

醍醐寺三宝院庭園 2

—「後悔千萬」の庭—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

今回は前号に引き続き、醍醐寺三宝院庭園に先行する室町時代の庭園について紹介します。

三宝院の歴史 京都市伏見区にある三宝院は、真言宗醍醐寺派總本山醍醐寺の子院の一つです。平安時代後期に創建されたと伝えられ、仁王門北東の敷地に仏堂と住房を兼ね備えた建築群と、密教固有の儀式を行なう御堂である灌頂堂が建てられていました。室町時代前期頃には住房の機能が仁王門北西の金剛輪院(創建は鎌倉時代末)へと移行し、三宝院は灌頂院として存続していました。応仁元年(1467)に始まった応仁・文明の乱による戦火を受けて、三宝院並びに金剛輪院は焼失、その後は衰退の一途をたどり、廃寺同然となってしまいます。安土桃山時代へと移り変わる頃、豊臣秀吉の信任を得ていた第80代座主の義演(二条晴良の息子、足利義昭の猶子)は、住房である金剛輪院を復興し、醍醐寺伽藍の再興に努めます。醍醐寺の興隆を念じ、三宝(仏・法・僧)にちなんで、後に名称を三宝院と改めました。現在は下醍醐の中核を担う寺院となっています。

壊された庭 義演が編纂した醍醐寺の寺誌『醍醐寺新要録』巻第十二の金剛輪院篇「庭事」には、以下の一文が記されています。



写真1 金剛輪院時代の旧池護岸石 (南から)



写真2 現在の護岸石と金剛輪院時代の井戸跡 (南から)

「去天正三年六月□日干時予十八歳下山、當院再興、小堂一字先建立。其時崩築山埋泉水。是或人之異見也。後悔千萬。」

天正3年(1575)は義演が座主になる一年前の話です。18歳で修行を終え、醍醐山から下りて最初に取り組んだのは、金剛輪院の再興でした。小堂1棟を建てる際に、

築山を崩した土を使って池を埋め、整地を行なって、この古い庭を壊してしまいましたが、とても後悔している、と書いています。では、彼が壊して後悔したという古い庭とは、どのようなものだったのでしょうか。

醍醐寺第74代座主満済が『満済准后日記』の永享2年(1430)3

月4日付けで、「任庵主が今日之を召し給わり、新しく庭を造ることを沙汰した」と記述している庭が、それに相当すると考えられています。任庵主は人柄や経歴はわかりませんが、室町幕府6代将軍足利義教に重用された禅僧として知られています。日記には、延べ200～300人が普請に関わり、醍醐寺の塔頭で、承久元年(1219)創建の阿弥陀院から大きな石3つを引いてきて造ったと記されています。これらのことから、景石を配置する池と築山が造られた規模の大きな庭であったことが想定されます。

地上にあった築山などは跡形もありませんが、この庭についての義演の言によれば、池は埋めているといった点で、遺存している可能性が高いと研究者の間では予測されていました。この池跡の場所を発見することも、庭園の修復にともなう発掘調査の目的の一つとなり、池北側の陸部に調査区を設

定して調査を行なうことになりました。

発見された池跡 安土桃山時代から江戸時代初頭の白色砂の整地層を発見しました。これは、豊臣秀吉と義演の造庭によるものです。その下層では、金剛輪院時代の池跡が良好に保存されていることが判明しました。旧池護岸石は現在の護岸石から2m程度陸部に入った位置で発見されました(写真1)。大きさは40cm程度の角ばった形状の石が使用されており、50cm以上の巨石を使った現在の庭石とは明らかに異なっていました。池の推定規模は、旧池護岸石と北岸の現在の護岸石直下で発見した井戸(写真2)の位置、各調査区で確認した池埋土の範囲から、東西20～30m、南北7m以上であったと考えられます(図1)。池の深さは0.5mと現在の3分の1程度の深さで、埋土から焼けた壁土や炭などが出土しました。この旧池は護岸石上面までは平坦に埋め戻し、

それより上層は陸部から池に向かって斜めに土を入れながら平坦に均すといった手間のかかる工程を採用して、丁寧に埋め戻されていたことがわかりました。

おわりに 金剛輪院は文明2年(1470)と弘治2年(1556)に火災にあい、その後は天正3年(1575)の義演による復興まで松原のまま放置されていたとされています。調査の際に出土した焼けた壁土や炭は、どちらかの時期に焼けた建物の痕跡と考えられます。荒廃が著しかった池跡を26年かけて新しく造り直す労力を厭わなかった義演の意気込みは、相当なものであったでしょう。また、この義演が造った庭は、秀吉が醍醐の花見の準備で来ていた時に見学し、秀吉自らの手で造庭したいという普請熱に火を付けた原型となる庭でした。そして、秀吉が完成させたとされる庭をさらに改築した義演の情熱の凄まじさを感じ入るばかりです。(近藤奈央)

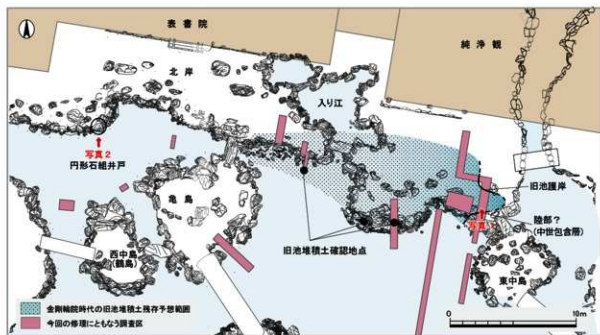


図1 金剛輪院時代の池(1:300)